

平成21年度墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会
第4回合同分科会議事要旨

- 日 時： 平成21年10月2日（金） 午前10時00分～12時00分
場 所： 122会議室（区役所庁舎12階）
議事内容： 1 全体会…推進協議会長あいさつ、鈴木部長あいさつ
2 資料の説明、庁内ヒアリングの報告
3 全体討議 （1）「両分科会共通の課題について」
（2）「後期目標について」
4 その他…次回以降の分科会開催日予定

【配布資料】

- 資料1 「乳幼児期」「児童・青年期」両方に係る課題
資料2 事務局案：平成26年に達成すべき新たな目標
資料3 10月2日討議内容・タイムスケジュール
資料4 乳幼児期分科会提案事項、検討結果
資料5 9月28日分 乳幼児期自主分科会議事要旨・各委員のアンケート回答
資料6 児童・青年期分科会 検討テーマ
資料7 9月8日みどりっ子いきいきスクール見学会報告・資料
資料8 9月17日児童・青年期自主分科会議事要旨・資料
資料9 9月24日児童・青年期自主分科会議事要旨・資料
資料10 保育所の状況（平成21年4月1日）等について
資料11 区民懇談会について（事務局案）
資料12 参考資料「ワーク・ライフ・バランス勉強会&意見交換会」

墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会 分科会委員名簿

氏 名	所 属	乳幼児期 分科会	児童・青年期 分科会
◎布施 英雄	共愛館理事長	*	*
○澁谷 昌史	関東学院大学准教授	*	*
☆野原 健治	興望館館長		*
☆長田 朋久	横川さくら保育園長	*	
増田 理枝子	増田小児科医院長	*	
本多 義敬	両国幼稚園理事長	*	
服部 栄	雲柱社理事長		*
大串 紀代子	両国子育てひろば施設長	*	
鈴木 和美	主任児童委員	*	
山下 洋史	男女共同参画推進会議委員長	*	
雁部 隆治	小学校連合PTA会長		*
田村 亨	中学校PTA連合会		*
須貝 利喜夫	青少年委員		*
田口 武司	文花中地区青少年育成委員会		*
野城 東亜子	墨田区少年団体連合会		*
小菅 崇行	小菅株式会社代表取締役社長		*
西村 孝幸	小梅保育園代表	*	
田口 典子	公募委員	*	
小平 多津子	公募委員		*
上野 悦子	公募委員	*	
荒木 尚子	緑幼稚園長	*	
伊藤 隆雄	緑小学校長		*
松本 憲一	墨田中学校長		*
鈴木 陽子	子育て支援担当部長		
細川 保夫	福祉保健部長		
坂本 康治	教育委員会事務局次長		
麻場 富喜子	江東橋保育園長	*	

◎推進協議会長 ○推進協議副会長 ☆分科会長
*担当分科会

事務局

子育て計画課長 岩佐一郎
 児童・保育課長 関口芳正
 子育て支援総合センター館長 今泉峰子
 子育て計画課 染谷、有澤、佐藤

1 全体会…推進協議会長あいさつ、鈴木部長あいさつ

(会 長) 第4回分科会を始めます。今までの分科会で、乳幼児期、児童・青年期ともに熱心な討議がなされました。実施にあたっては庁舎内の各部局との話し合いが必要ですが、事務局内部で熱心に討議していただいているということです。今日は最後の討議として、両分科会の共通課題と後期目標について話をします。細目については十分に討議する時間はありませんので、今まで話した中で足りないことがあれば付け加えてください。よろしくお願いいたします。

(事務局) 続いて、事務局より鈴木部長のあいさつがあります。

(子育て支援担当部長)

本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。また、自主分科会でも多数の方がお集まりいただき、改めてお礼を申し上げます。政局が変わり、私たちも情報収集に努めているところですが、本日から、平成21年度の子育て応援特別手当が始まりました。今回は第1子からの3歳から5歳の児童に、36,000円が支給されます。まずDV被害者への対応が優先され、DV被害者の方に住所変更していただくようお願いし、それができない場合には10月30日までに事前申請をしてもらいます。その後12月11日以降に一般申請を受け付けます。また、来年度から子ども手当は国の動きを注視しながら、実際の施策を考えたいと思います。皆さんにも情報提供しながら一緒に考えていきたいので、よろしくお願いいたします。

2 資料の説明、庁内ヒアリングの報告

(会 長) では、お手元の資料について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料説明をします。

—資料説明—

(会 長) ありがとうございました。続いて、私たちの討議を庁内ではどう受けとめ、進めるのかということのヒアリング結果について、ご報告をお願いします。

(事務局) 庁内ヒアリングの報告をします。

—庁内ヒアリング報告—

(会 長) 我々からアイデアや意見が浮かび上がると同時に、庁内の各部局でも、次世代育成支援にからむ施策に気付き、推進するという動きが出てきました。まさに官民一体となった、すばらしい取り組みです。では、協議に移ります。

3 全体討議

(1) 両分科会共通の課題について

(会 長) 乳幼児期と児童・青年期にまたがる問題である、情報発信、要保護児童、障害児、国際家族、公園についての話し合いをします。皆さんのご意見はお手元の資料に全て載せてあります。細かい討議をする時間はありませんが、特に「乳幼児期から小学校入学への接続について」というテーマについてはご意見をいただきたいと思います。念のため順番に取り上げていきますが、特に付け加えることがなければそのまま進めます。では始めに、情報発信についてです。既にあがっている以外にご意見はありますか。

- (委員) 神戸市では、子育てに関する表彰制度を行っています。墨田区の子育てのサポートをしている企業や団体などへ表彰を継続していけば、ほかの団体の動機付けにもなります。活動内容の情報発信にもつながるのではないかと思います。
- (会長) 表彰することで活動内容を知ってもらうと同時に、表彰された人たちの励みにもなるということですね。そのようなことが計画に入れ込めるのであれば、どこかに入れ込んでいただきたいと思います。ほかにご意見はありますか。
- (委員) 錦糸公園内の体育館で活動しているママサークルに私の知人が参加したいと思い、体育館に問い合わせたところ、個人情報には教えられないということだったので、区に問い合わせましたが、わからないということでした。結局自分でママサークルの人たちを待ち、話しかけて参加できました。ママサークルが利用している施設に問い合わせた時には、個人情報の問題などがあり、教えてもらうことは不可能なのではないでしょうか。また、子育て支援総合センターなどで情報を発信できれば良いのではないのでしょうか。
- (事務局) 個人情報の問題で、区から情報を提供するのは難しいところです。会場での張り紙などを見てアクセスするのが通常です。区の生涯学習課という部署でつくっている生涯学習のガイドマップの中でサークルが紹介されており、それを見てアクセスすることも可能ですが、ガイドマップは施設などにしか置いていないので、個人が直接アクセスすることができれば良いということを感じています。今回の計画の情報発信の中では、そのような情報を見られるようなしくみも必要だと感じます。
- (会長) その点は今後検討してもらい、民間サイドの情報も把握できるようになると良いと思います。ただし、目立たないように活動しているところまでオープンにすることは難しいかもしれません。その場合には、分野別に相談できる場所があるということが必要だと思います。では次の、「要保護児童への支援」へ移ります。
- (委員) 委員へのアンケート結果の中に「情報の共有化を図る」という文言がありますが、民生委員、主任児童委員、保護司には守秘義務があるので、本当に情報の共有化が図れるのか疑問です。また、「情報を得られやすい関係機関は、それをオープン化していく」とありますが、本当にオープン化することができるのか疑問に感じます。
- (副会長) 先駆的な自治体では、地域協議会の下部組織を中学校区につくり、守秘義務の規定を含めた整備を行っています。これを墨田区で実施することは、大きな意義があると思いますが、実効性があるしくみにするためには、もう一段階の検討が必要だと思います。
- (事務局) もし良い事例があれば、ぜひ資料をいただいて、研究したいと思います。
- (会長) 区にしっかりしくみをつくっていただいて、民間サイドが動きやすくなれば良いと思います。これは難しい問題ですね。
- (事務局) 要保護児童の問題に関しては、要保護児童対策地域協議会を立ち上げていますが、大きい会議では個人名での検討はできません。しかし、ケース検討会議などでは、関係機関同士で個人情報を出して検討しています。中身の深刻さやプライバシーの問題などもあるので、ご提案通りにはいかない部分もあると思います。そこを取りもち、調整していく役割は、子育て支援総合センターであるということ認識しています。
- (会長) 副会長のおっしゃるしくみというのは、どのようなものですか。
- (副会長) 中学校区の集まりそのものを、本体の要保護児童対策地域協議会の法律的なバックグ

ラウンドがあるものになっているということです。

(会 長) 子育て支援総合センター1 か所で全てを動かすのは無理なので、中学校区に支部を作ってそこで話し合い、またその支部から下ろしていくという形になると思います。ほかにご意見はありますか。

(副会長) 要保護施設を墨田区内に設置することを、前向きに検討していただきたいです。大きな施策の流れの中で、「都やほかの自治体のみ依存するということではいけない」という動きが出ていますので、墨田で生まれた子どもがどう墨田で育っていくかということを中心にしながら、ほかの区や都との協働を図るということが大事な視点だと思います。

(事務局) 都と特別区は、他の市町村とは税金の徴収の仕方などが違ってきます。市町村税が都税へまわり、通常は市がする仕事を都がしています。要保護児童に関する仕事も都がしていました。しかし、役割分担や税徴収の仕方において、都と23区の間で見直しの検討がされています。今後の動向を踏まえ、要保護児童に関する仕事が区の仕事であるということになれば、積極的に整備していきたいです。

(副会長) その辺りの見通しが必要だと思います。

(会 長) では次に、障害児への支援、国際家族、公園についてご意見はありますか。なければ、次へ話題を移します。乳幼児期から小学校入学への接続についてご意見をいただきたいです。まず、区の動きをご説明ください。

(事務局) 保育園では、保育所保育指針が改定され今年度から実施されています。その中で、今までは幼稚園だけが小学校に子どもの情報を送っていましたが、保育園からも情報を送るという内容が組み込まれています。子どもの育ちを小学校に伝え、滑らかな接続ができるために、公立幼稚園の園長・副園長、公立保育園の園長・主任、教育委員会指導主事、すみだ教育研究所のメンバーで、5歳児の発達をおさえたプログラムづくりに取り組んでいます。同時に交流、意見交換などの連携も図れるようにしていきたいです。また、児童・青年期分科会では、中1ギャップという話が出ましたので、参考として資料に載せています。

(会 長) ご意見はありますか。小学校に入った子どもに、授業が成り立たないような勝手気ままな動きが出ているということですが、なぜでしょうか。

(事務局) この問題には児童・保育課が主管になり、教育委員会と連携して取り組んでいます。保育園では、保育士と子どもが家庭生活に近い環境で日常生活を送っているのに対して、小学校では時間でカリキュラムが組まれ、過ごすという「大きな環境の違い」があります。また、集中力が弱い子どもの姿があり、クラスに数人そのような子どもがいると学級全体が落ち着かなくなります。墨田区の小学校でもそのような現状があるので、「5歳児のプログラム」づくりについて検討しているところです。

(分科会長) 保育園、幼稚園、小学校とで連携しながらカリキュラムに沿うような子どもを育てるということは、とても難しいことです。学校の授業の形態は変わらないので、保育園側が合わせる準備をしていかななくてはならないのかなと思います。

(会 長) 保育園児が小学校の教室で、1年生ごっこのようなことができればよいと思います。アメリカでは、小学生になるための実習のような体験をします。また、ドイツでは、1年生は時間割で授業をせず、1年かけて学校生活とは何かを学んでいきます。今こ

ここでは、保育園の5歳児を小学校へ連れて行って、模擬授業を体験させるということが必要かと思います。小学校側がそのようなことを認めてくださるかはありますが。

(委員) 幼保の一体化はなかなか進んでいきませんが、今回の保育所保育指針改訂の中で、「養護と教育」について打ち出されているということは、日本の施策の流れは幼保一体へ向かっているのでしょうか。

(分科会長) 保育所保育指針の前々回位の改定で、3～5歳の保育指針と幼稚園教育要領の内容がほとんど同じになり、今回の改定で「養護と教育」が前面に出てきました。それは「認定こども園」などの新たな制度を視野に入れてのことだと推測しています。日本においては、教育(文部科学省)の方が歴史は古く、厚生労働省の福祉の考えが後発なのです。

(委員) 私は学童保育が少しずつ文部科学省の考え方へシフトしていると感じているので、そのような流れがあるのかどうかお聞きしました。

(分科会長) 省庁縦割り行政の歴史と伝統を融合することはなかなか難しいと思います。しかし、国民の意識としては、融合しても良いというのが時代の流れだと思います。小学校で午後5時まで子どもを見られないのは、教育活動だからです。そのため学童保育の制度ができました。もしも、小学校の先生が夕方まで子どもをみてくれば、問題は無いのですが、国のレベルでうまくいきません。

(分科会長) 保育の中でもクラスの秩序を保つのが難しいところもあり、職員の力量なのか、乳幼児の素因なのか、議論が分かれるところです。しかし、総じて保育内容は見直していく必要もあるし、保育園児も幼稚園児も共通の見方が必要なので、保育園と幼稚園が対話をしていくというラインができてきたのだと思います。それを小学校の先生がどうみるのか、しっかりした考え方をもつことが必要だと思います。もう1つ、接続のためのプログラムの研究は大賛成です。保育園と幼稚園の子ども同士を進級した時と秋頃に合わせることで、共通意識と安心感が生まれます。就学前の体験プログラムを1年を通してしっかり考えると良いと思います。

(委員) 幼稚園児の保護者は、小学校で保育園児と一緒にすることに不安を感じています。「じっとしてられない子は保育園の子」というイメージがあるので、「みんな仲良くやっている」ことを幼稚園に通わせている親にも伝えられれば良いと思います。また、幼稚園から教育に力を入れている保護者が多いのに、小学校が昔のまま「あいうえお」から始めるということのギャップについても考えていただきたいと思います。

(会長) 昔の小学校の先生は「文字は小学校で教えるのでそれまで教えないでください」と言っていました。今は違うのでしょうか。

(事務局) 今でもそうです。

(委員) 有名な幼児教育教材の会社では、ひらがなは3歳からと言っています。子ども自身も興味をもちどんどん吸収しますが、覚えたものをまた小学校に入ってから勉強するので、今の時代、それはどうなのかと思います。また反対に、小学校からしっかりやってほしいという親もいます。小学校を選択する際には、学級が荒れていると聞けば避け、教育に力を入れている学校を選ぶという人が多く、その辺りもどうなのだろうと思います。

(会長) 小学校の先生から見ると、幼稚園から来た子の方が慣れやすいのですか。

- (分科会長) そのような見方でなく、一人ひとりの子どもがどういきいきと学習にむかえるかを考えることが重要だと思います。
- (事務局) 小学校長に確認したところ、幼稚園と保育園では子どもに違いはありますが、どちらが問題になるかということは一概に言えないそうです。幼稚園から来た子がうまく人間関係をつくれず、けんかになってしてしまうということもあるそうです。
- (委員) 現在は、保育園にも幼稚園にも行っていない子どもはいないのですか。もしいるとしたら、そのような子はどのように扱うのか気になります。
- (事務局) 4、5歳になると、99.9%が幼稚園や保育園に通っています。どこにも通っていない子どもは長期入院や療養と考えられます。墨田区は、ほぼ100%に近い子どもが集団生活を経験しています。
- (分科会長) 小1プロブレムについては、統計を取って保育園の子が問題とされたわけではありません。昔から小学校では、幼稚園出身のお母さんはPTA活動をしているのに、保育園出身のお母さんはあまり手伝ってくれない、という対立があります。社会全体が、仕事をしている母親もしていない母親も認め合って、「子どもたちを良く育てるにはどうしようか」という意識になっていくにはまだ時間がかかりますが、その取っ掛かりを認定こども園でつくり始めたところなのだと思います。
- (委員) 小学校は今まで、入学する児童の多様性に目をむけていませんでした。教育プログラムも児童に対するケアの仕方も、画一的であることが公平だとされてきました。しかしそれで公立の中学や高校が行き詰り、多様性を認める方向となってきたので、小学校も検討する必要があると思います。小学校前には幼稚園、保育園で多様だったのが、入学したら画一になるのでギャップが生じるのではないかと思います。
- (会長) 幼稚園、保育園の両方に検討する部分があるので、連携をとってすり合わせ、お互いにどう役立てるかという取り組みを進めていただき、そのような研究会を立ち上げ、機能するようになれば良いと思います。
- (委員) まずは交流から始めないと進みません。墨田区で本所地区と向島地区の2つに分かれていた小学校のPTA 団体が昨年1つになりましたが、それまで何年も交流を重ねてやっとここまでできました。授業の中で近くの幼稚園児と1年生の交流をしていますが、そのような機会を増やさないと変わらないと思います。
- (会長) すでに取り組みがあるのですね。
- (事務局) 「5歳児プログラム」の検討を半年間進めてきて、「交流」が欠けていたことに気付きました。まず、それぞれの子どもの状況を理解するための、幼稚園と保育園の先生同士の交流がありませんでした。また同様に、幼稚園・保育園の先生と小学校の先生との交流がありませんでした。小学校に入学するまでに求められること、入学前にどこまでできているのかということが、それぞれの場所に実際行って見学することでわかるということに気付きました。先生方と子どもたちの交流を進めていけばうまく接続していけるのではないかと思います。だんだん見えてきたところです。
- (会長) ではその取り組みを進めてください。どこが推進していますか。
- (事務局) 児童・保育課です。
- (会長) 全面的に幅広く取り組めるように進めてください。ほかにご意見はありますか。
- (委員) 私立幼稚園はそれぞれ理念をもっている施設なので、幅があります。目指すものに特

徴があるので、注意しないといけません。また、「5歳児プログラム」の作成には私立幼稚園は関わっていません。私立と公立でも目指すものは違うので、そこもとらえずにしくみをつくるのは危険ではないかと思います。

- (委員) 幼児が小学校に行って交流できると良いと思います。
- (委員) 交流となると構えてしまうと思うので、こどもまつり等で共同の運動会を開催するなど、遊びを中心としたふれあいから始めたらよいと思います。主張がぶつかり合うと新しいものは生まれないので、ソフトに触れ合えた方がいいのではないかと思います。
- (会長) 色々なレベルの取り組みがありますが、最終的には接続の問題ですので、軸になる取り組みと周辺の取り組みを合わせて進めましょう。また、どこが進めていくのかのしくみを考えていくことが大切です。この推進協議会が中心に分科会を立ち上げて良いと思います。
- (委員) 参考としてお話しします。大学ではオープンキャンパスを開催して、高校生に理念や内容をPRします。また、高校に模擬講義に行ったり、高校生が大学で講義を受けるということがあります。これは交流のアプローチの一つの方向性を示していると思います。
- (委員) 保育園児を小学校に送り出す時、近隣小学校の先生に来てもらい、ディスカッションをしました。それを通して職員も意識が変わったので、連携・交流は必要だと思います。接続という言葉は無味乾燥なので、計画に載せるときにはほかの言葉を考えたら良いと思います。
- (会長) 「つながり」ですね。
- (委員) 中学校の生徒会との懇談会で、中学生が小学校5、6年生を、中学の校舎を連れて案内するというアイデアが出ました。同じように小学生が小学校内を園児に案内したら面白いと思います。
- (委員) 私が1年生の時には、6年生が給食の配膳を手伝いに来てくれて、小学校生活に慣れていったような記憶があります。現在の幼稚園でも、年長が年少の着換えを手伝うことで幼稚園に慣れていくということがありますが、今の小学校ではそのようなことはありますか。
- (委員) 1年生が入学した時に、5、6年生が校内を案内するという事はやっていると思います。
- (事務局) 異年齢交流といって、高学年と低学年の交流はどここの学校でもしているはずですよ。
- (委員) それが小学生と園児や、小学生と中学生など、全体に広がっていけば良いですね。
- (会長) 色々な案が出ましたが、それが区内全体で行われるような形にもっていきたいと思います。

(2) 後期目標について

- (会長) 後期の目標をどうするかということを検討します。お手元の資料に事務局案がありますが、ほかに良い案があれば出してください。まず、事務局から説明をお願いします。
- (事務局) 説明いたします。

—資料説明—

- (会長) 前期は少子化という問題があり、子どもの数を増やすことを目標としましたが、増え

た子どもと子育て支援の内容が重要なので、指標を「子ども、家庭、地域」の3つにし、それぞれ5年後の将来像を提示しました。ご意見はありますか。

- (委員) 3つの側面から評価を考えるのは良いと思います。「子ども」の部分の、「将来子どもがほしいですか」という質問は親の立場になってしまうので、墨田区で生まれ育った中学生位の子どもが「生まれてよかったと思うか」というような評価指標をつくと良いと思います。また、「地域」には企業を含むということですが、地域の取り組みを中心に考え、企業は項目を分けたほうが良いと思います。
- (委員) 地域企業にアンケートを取った時には、前向きに子育て支援したいという企業がたくさんあったので、それを使えると良いと思います。また、目標設定の前書きの部分で「前期の目標は達成の見込みなので、新たな目標を立てた」ということがあると、前期からの変化がわかると思います。
- (委員) 地域の子どもが他の地域の学校に通ってしまう状況があり、子どもを地域で見守るといっても、問題を把握できないという状況があります。あまり地域に重点を置かれると厳しいところがあるということを念頭において考えていただきたいです。
- (会長) 他の地域に住んでいる子どもも、墨田区に在住の子どもは「墨田区の子ども」と考えることが大切だと思います。
- (委員) 地域での子育て支援や人材育成が難しい状況だからこそ、目標を立てて取り組むことが必要だと思います。
- (会長) ありがとうございます。ところで企業は別にしますか。
- (委員) ワーク・ライフ・バランスの問題があるので、分けることに大きな意義があると思います。
- (会長) 日本全体への呼びかけにもなりますね。
- (事務局) 地域の中に企業があり、やっていただける部分があるという期待を込めて、このような形にしています。ただ、評価指標をつくる時に、いくつかの要素に分かれるのは良いと思います。企業に関する評価指標は設定しにくいのですが、良いアイデアはないでしょうか。
- (委員) 墨田区では、中小企業に焦点を当てて考えると良いと思います。大企業は男女共同推進委員会のネットワークでわかりますが、零細企業はつかみきれません。可能であればそこに焦点を当てていただきたいと思います。
- (委員) 職場体験事業の受け入れ数を評価指標に入れたらいかがでしょうか。また、講義に行った回数などはいかがでしょう。
- (委員) 職場体験は受け入れたくても受け入れられない企業もあると思います。指標にしてしまうと、そのような企業がかわいそうだと思います。
- (委員) 受け入れられるところを評価すべきだと思います。
- (委員) 商工会議所でも、企業を取り込むことは始まったばかりです。評価指標に入れていただくと啓発の意味でも良いと思います。大企業は社員にも地域にもサポートしていただけますが、墨田区の企業は規模も力も小さいところが多いので、集約して何かできないかと思っています。教育支援プログラムやこの評価指標などで提示していただいて、参画したい企業を募ると早いと思います。先週、企業の団体が講師となり、中学校で授業をしました。非常に面白く、機会があればほかの企業も誘いたいという話ができました。

ので、そのようなチャンスは広がっていくと思います。

(会 長) そのことを行動計画の中に含めることは良いと思いますが、目標に入れることは少し考えなくてはいけないと思います。それを数値として指標化するにはどのようにすれば良いのか、または数値化せず、文言だけで良いのかということですが、いかがでしょうか。

(委 員) 企業が何かをする機会をどのくらいつくれたか、例えば学校の授業で「今年は何回企画しよう」ということは良いのではないのでしょうか。また、商工会議所のほかにも法人会など色々な団体がありますので、そこも対象に含めたら良いと思います。

(委 員) 中学から高校へのつながりも必要だと感じています。また、企業としては、長いスパンでお預かりするインターンシップは学生と社会とをつなぐきっかけになると思いますが、難しい問題です。

(会 長) 高校は区立ではないので、つながりがもちにくいところがあります。高校側からは、中学から来た子どもについて、全く声が聞こえてきません。

(委 員) 定量的な目標値を設定しないとなんとなくで終わってしまいますし、達成してもあまり効果のない目標値では意味がないので、言葉での目標と、数値目標の2段階で設定したほうが良いと思います。目標値は測定可能なものを設定し、目標と測定値に多少のギャップがあってもやむを得ないのではないかと思います。

(事務局) 事務局としてはそのようにしたいと思っておりますが、「地域」の評価指標に悩んでいます。

(委 員) 例えば盆踊りをやっている地域の数など、若干関連するところにならざるを得ないのではないかと思います。

(委 員) 地域への子育て支援に意欲がある企業が登録できる制度があれば数値が出ますし、その名簿を公開すれば、先ほどの中学での授業を頼むというようなこともできると思います。

(副会長) 今のように個別に評価項目を出しても良いと思いますし、地域の公園数など、地域の特徴を把握して、5年後にまた議論できるような素材があれば良いと思います。項目そのものについてはこれから色々出てくると思います。

(会 長) いくつかあっていいだろうということですね。

(委 員) 質問です。現在は聞いていない項目を指標にして、5年後にアンケート調査することはできますか。子どもや一般の人に、「墨田区の企業をどう思いますか」と聞いてみたいのです。

(事務局) 新設の質問では現状と5年後のデータの比較ができないので、今のニーズ調査と比較できるような形にする必要があります。それから、主観的な感覚は大事ですが、評価指標としては、ある程度客観性のある質問が望ましいと思います。

(会 長) では、この話題については、柱が3つあって「地域」に企業を入れても良い、指標は複数あって良い、ということでよろしいのでしょうか。数値は区が持っているの、皆さんのご意見を反映させながら、区に設定をお任せしてもよろしいのでしょうか。

(一 同) 賛成。

(会 長) 後期目標についてはそのようにさせていただきます。では、シンポジウムの計画を含めてご説明をお願いします。

- (事務局) まず、シンポジウムについて説明します。12月に中間報告を公開してパブリックコメントを行います。同時並行して、12月13日午前10時～12時、リバーサイドホールにおいてシンポジウムを開催します。テーマは、「子育てを支える地域のつながり」です。内容は区長の挨拶、澁谷先生の講演、協働の事例を紹介しながら、布施会長をコーディネーターとして意見交換していくという流れでいきたいと思います。
- (会長) 前期の時とは違って、テーマを「協治(ガバナンス)」とはっきり打ち出しました。協働についてはそれぞれ取り組みがありますが、新しく芽が出たような取り組みを伝え、参加者が「こんなやり方があったのか」とわかり、一歩を踏み出せるような会にしたいと考えていますが、ご意見はありますか。
- (委員) シンポジウムのターゲットはどのように考えていますか。
- (事務局) 「協働」の考え方は、基本的に区民全員が主体です。
- (委員) 地域団体の長や父母の会などのくくりは多少あった方がよいと思います。
- (委員) もし子育て中のお母さんをターゲットに入れるなら、託児の手配をお願いします。
- (事務局) 手話と託児は手配します。
- (委員) 「次世代育成支援行動計画推進協議会が行う協働について」というような案内は固いので、色々な人に興味をもってもらうために、もう少し柔らかい文言がよいと思います。
- (会長) 良い表現はないでしょうか。
- (委員) 表題からも、ターゲットがみえません。
- (事務局) 参加した人たちが地域とつながりを持ち、行動に移るきっかけにしたいという狙いがあります。
- (委員) ターゲットが町会長などでしたら、固めの表題のほうが良いのかもしれません。
- (委員) 「墨田で子育てコラボレーションを考える」というのはいかがでしょうか。
- (委員) 「支えあい」などはいかがでしょう。
- (会長) サブテーマにそのようなワードを入れてもよいと思います。表題としては「すばらしい墨田の子育てをつくろう」など、あっさりした言い方でよいと思います。
- (委員) ターゲットは誰なのでしょう。「一緒に考えましょう」と声をかける相手を知りたいです。
- (委員) 内容は、子どもの育ちに必要な協働というようなことでしょうか。
- (会長) はい。
- (委員) 澁谷先生の講演は、どのようなお話をされるのですか。
- (副会長) テーマに沿ってこれから考えますが、様々な「取り組みへの芽が育つために」のようなポジティブな内容を考えています。現実的には一般の人はあまり集まらないので、子育てに関する組織に参加しているような方に声をかけることになると思います。
- (事務局) 区内には、お母さんたちのサークルなどもあります。託児も準備し、多くの区民に来ていただき、協働について知らせていきたいと思います。
- (会長) 区民の取り組みを多く紹介して、「それなら私にもできるかもしれない」という動きをつくっていけるような会にしたいと思います。では、区民の取り組み事例について話したいと思います。公募委員さんは色々な事例を知っているようなので、それを紹介して呼びかけるということはいかがですか。

- (委 員) 私がやっている取り組みはお母さんレベルでの取り組みとは言えないので、お母さんたちにはあまり興味をもってもらえないのかと思います。
- (会 長) そうですか。では、良い知恵があったら教えてください。次に、学校と地域のかんけいについては、地域と学校が協力し運営し、区民運動として良いモデルは「いきいきスクール」です。このようなことを取り上げ、話し合えたら良いと思います。企業関係では、企業代表の委員さんにお話ししていただくのはいかがかと思いますが。
- (委 員) はい。
- (会 長) よろしくをお願いします。また、協働にむけて開かれた区にするための取り組みについては、子育て支援担当部長にお願いします。そのような組み立てでよろしいですか。
- (委 員) 賛成。
- (会 長) みなさんにはぜひ参加していただき、ここで話し合ったことやご提言をいただきたいと思います。詳細は区にお任せします。

4 次回以降の分科会開催日予定

- (事務局) 10月19日は、「中間のまとめ」の大まかな骨子を出します。具体的には地域で取り組めることを議題にして、中間のまとめにも入れ込めるような討議をしていただきたいと思います。
- (会 長) では、閉会します。